

令和7年6月16日

日立理科クラブ通信



日立理科クラブ

No. 246

「理科室のおじさん」を訪ねて2 日立市立櫛形小学校

今回の「理科室のおじさんを訪ねて」は、櫛形小学校（芳賀友博校長）の須田滋（すだ しげる）さんです。

須田さんは、茨城県高萩市の出身です。子どもの頃は、畑仕事を手伝ったり、畑で遊んだりしていたそうです。そして、今でも、理科室のおじさんをしながら、米を作ったり、畑で野菜を作ったりしています。自分で食べるものを自分で作れるのは、安全でおいしいと思います。

理科クラブに入る前は、日立コントロールシステムズ入社後プログラミング装置の設計、監視制御システムのソフト制作などを行ってきました。コンピュータがこれから普及していくという時代に、開発を担当されていたさきがけですね。

理科室のおじさんは、櫛形小学校が7年目になります。学校では、「理科おじさん」と呼ばれ、児童にとっても親しまれています。いつもは理科室で、実験の準備や片付け、器具の修理などを行っています。児童が安全に実験を行えるように、工夫して取り組んでいます。

理科室には、メダカの水槽と、卵を観察するための顕微鏡が用意されていました。よく見ると、メダカの卵が、袋に入っていて観察しやすく工夫されています。また、理科室の入り口には、科学遊びのコーナーもありました。

櫛形小は学級数が多いので、準備もたいへんですが、先生方とうまく連携しているようです。

児童に伝えたいのは、安全に実験ができるように準備、行動するという事です。授業中に、わからないような顔をしている児童がいると、声をかけるようにしています。少しの声かけでわかったと自信を持ってくれることがあります。児童が実験で成功したときのうれしそうな顔を見るときにやりがいを感じるそうです。

最後に、櫛形小学校のよさを聞きました。櫛形小学校は市内で最も児童数が多い小学校です。児童は、とても元気よく挨拶します。この日も、理科室に向かう途中で出会った児童は、明るく挨拶してくれました。また、本に親しむ児童が多いそうです。理科室の隣は図書室になっていますが、いつも多くの児童が集まっていて、本の貸し出し数がとても多いようです。

校庭には、須田さんが理科おじさんになる前からビオトープがあります。6年生の「生物と地球環境」の単元では、ビオトープから採取したミジンコなど微生物を観察しています。

ビオトープと理科室がつながっていておもしろいです。とてもよい環境教育になっていると思います。



「理科室のおじさん」須田滋さん



メダカ



科学おもちゃ



メダカの卵の観察



ビオトープ